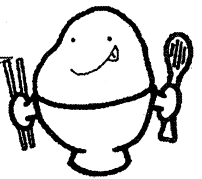


皆様に愛されるオーケストラになるための目標を考えました！  
皆様のご意見をお聞かせください♪♪



## 京都市交響楽団ビジョン（仮称） 策定に係る市民意見募集

京都市交響楽団は、昭和31年4月に、日本で初の自治体オーケストラとして発足し、「市民に愛され、世界に誇れるオーケストラ」を目指して、半世紀超にわたり、多彩な事業を実施してきました。

こうした中、令和2年4月、地方公務員法及び地方自治法の改正（令和2年4月施行）に伴い、京都市交響楽団楽団員については、京都市の特別職非常勤嘱託員から、（公財）京都市音楽芸術文化振興財団の職員となります。

これに伴い、今後も京都市が楽団の設置に責任を持ち、京都市交響楽団を支援することを目的として、昨年度、京都市交響楽団条例を制定（令和2年4月施行）し、本年度は、京都市交響楽団の更なる発展を目指すための京都市交響楽団ビジョン（仮称）の策定に向け、検討を進めてまいりました。

この度、京都市、（公財）京都市音楽芸術文化振興財団、京都市交響楽団関係者等で構成する検討会議において、「京都市交響楽団ビジョン」（案）を取りまとめましたので、皆様のご意見をお聞かせください。

募集期間 令和元年9月17日（火）～10月17日（木）【必着】

応募方法 郵送，FAX，電子メール又はホームページの意見募集フォーム等により御応募ください。様式は自由です。

<電子メールアドレス>

[bunka@city.kyoto.lg.jp](mailto:bunka@city.kyoto.lg.jp)

<市民意見募集ホームページURL>

<https://www.city.kyoto.lg.jp/templates/pubcomment/bunshi/0000257075.html>

（京都市情報館で「京響ビジョンパブコメ」と検索してください。）

提出先・発行 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

〒606-0823

京都市左京区下鴨半木町1-26（京都コンサートホール内）

TEL：（075）708-2302

FAX：（075）711-2955



# 京都市交響楽団ビジョン（仮称）

今日、音楽は、日々の暮らしの中に溢れ、私たちの生活の一部となっています。

京都市民は、伝統的な日本文化を大切にしながら、「市民生活が真に文化的になり、その中から新しい文化財が次々に生み出され、育成されていかなければならない」と、1956年、西洋に起源を持つオーケストラを「京都の新たな文化財」として構想し、日本初の自治体オーケストラを設立しました。

こうして生まれた京都市交響楽団は、設立から半世紀超、多くの市民に支えられながら、日々演奏力に磨きをかけ、最良の音楽を届けることに邁進し、文化的な市民生活に寄与するとともに、日本屈指のオーケストラとして評価されるまでに、成長・発展を続けてきました。

今後も、京都市交響楽団は、これまで培ってきたものを継承しながら、新たな時代を見据えて果たすべき役割を自覚し、「世界文化自由都市宣言」を掲げ、また、文化庁が全面的に移転し文化の都となる京都市の象徴として、更なる発展に向けて歩み続けなければなりません。

令和2年4月、京都市交響楽団が新たなステージを迎える今、改めて、主体である楽団員や運営する公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、設置に責任を持つ京都市は、オーケストラの意義、市民にとっての価値等を自問し、未来に向かう方向性を共有したうえで、市民の皆様にお示しする「京都市交響楽団ビジョン」を構想しました。

## 共に響き合う、京響

*City of Kyoto Symphony Orchestra*

*~ Sound of inspiration from the city of tradition ~*

## 私たち京響が「目指す姿」

➤ 市民にとっての価値を高めるために…

目指す姿

1

最上の音を奏で、人々と共に響き合い、

**身近な存在として、市民に愛され誇りとされるオーケストラ**

を目指します。

➤ 京都市の都市政策として位置付けを確かなものとするために…

目指す姿

2

音楽の力で新たな価値を創造し、文化と人を育み、

**文化芸術都市・京都の象徴となるオーケストラ**

を目指します。

➤ 楽団として高みを目指すために…

目指す姿

3

演奏力の更なる向上に邁進し、

**世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ**

を目指します。

# 「目指す姿」を実現するための5つの戦略

## 戦略1

▶ 世界水準の音楽で京都の文化芸術をリードします。

### ① 「文化芸術都市・京都」を牽引する文化芸術の振興

演奏力の向上による芸術性の追求、京都市立芸術大学など教育機関との連携による音楽家育成など、京都の音楽芸術を牽引します。また、市外での公演等により、京都から国内外へ、文化芸術都市・京都の音楽の力を発信します。

### ② クラシック音楽・オーケストラの楽しさを実感できるプログラムづくり

クラシックファンから馴染みのない方まで様々な方々が楽しめて、オーケストラならではの魅力が味わえる多彩なプログラムの創造に取り組みます。

#### 【現在の主な事業】

- ✓ 高い芸術性を追求しながらオーケストラの文化振興を図る「定期演奏会（年17回）」「東京公演（隔年）」等
- ✓ 京都市の音楽芸術文化の発展に向けた「京都市立芸術大学との協定」
- ✓ オーケストラやクラシックの魅力の名曲の演奏と楽しい解説で案内する「オーケストラディスカバリー」
- ✓ 地域文化会館を会場に、低料金で0歳から入場できる「みんなのコンサート」
- ✓ クラシック音楽のジャンルを超えたアーティスト・芸術文化とのコラボレーション「京響プレミアム」 など

#### 【検討会議等での議論】

- 京都市をパリやニューヨークのように芸術性溢れたまちにすることが京響の使命
- 日本国内にとどまらず世界に向けて京響の音楽を発信すべき
- 画期的な企画を試み、幅広い聴衆の鑑賞意欲や関心を掻き立てるものを発信し続けることが重要
- 吹奏楽プログラムを取り入れても良いのではないか

## 戦略2

▶ 音楽を通じた京都のひと・まちづくりに取り組みます。

### ③ 子どもたちの豊かな心をはぐくむ教育プログラムの積極的な展開

小学生や中学生のための音楽鑑賞教室やジュニアオーケストラの活動をはじめ、子どもたちが音楽を通して豊かな心をはぐくむためのプログラムに積極的に取り組みます。

### ④ より多くの幅広い市民に京響の音楽を届ける鑑賞機会の提供

地域に根ざしたオーケストラとして、京都コンサートホールでの演奏会はもとより、市内各所での小編成の演奏会等を実施し、子どもから子育て世代、高齢者までより多くの幅広い市民の皆様へ京響の音楽をお届けします。

#### 【現在の主な事業】

- ✓ 小学生のための音楽鑑賞会（年約12,000人）
- ✓ 中学生のためのオーケストラ入門教室（年約6,000人）
- ✓ 設立から15年、10～22歳の延べ510名の青少年が参画した「京都市ジュニアオーケストラ」
- ✓ 京都府吹奏楽連盟と共催する高校生・中学生を対象にした「楽器講習会」
- ✓ 福祉施設等への「訪問演奏」
- ✓ 毎月1回の「練習風景公開」 など

#### 【検討会議等での議論】

- 市内各所での小規模な演奏会、平日昼間の演奏会、参加者限定のリハーサル見学を実施してはどうか

### 戦略3

## 京響ファンの拡充，身近な関係づくりを進めます。

### ⑤ 京響ファンに喜ばれるサービスの提供と新たなファンの獲得

京響友の会をはじめ，ファンの皆様に喜ばれるサービスを提供し続けます。また，全国・世界から京都に学びに来る大学生・留学生，国内外の観光客等の新たなファンの獲得に取り組みます。

### ⑥ 京響・楽団員を身近に感じる情報発信

鑑賞されない方も視野に入れ，より多くの方に京響・楽団員を身近に感じていただけるよう，京響の音楽はもとより楽団員の魅力についても，様々なメディアを活用し，戦略的な情報発信に取り組みます。

#### 【現在の主な事業】

- ✓ 「京響友の会会員」への機関紙発行，チケットの斡旋割引，会員限定コンサート等
- ✓ 公演終了後のレセプション（年4回）
- ✓ 京響ファンをはじめ約160名の団員が活動し，京響との公演も行う「京響コーラス」
- ✓ ホームページ，Twitter，facebook等での情報発信

#### 【検討会議等での議論】

- YouTubeやInstagramを活用すべき
- ホームページで楽員紹介ページを設けてはどうか
- コンサートマスターや首席奏者など，楽団のスタープレイヤーの育成に意識的に取り組んではどうか

### 戦略4

## プロの音楽家集団として自覚ある組織風土を形成します。

### ⑦ プロの音楽家としての誇りと京響楽団員としての自覚・責任の堅持

プロの音楽家として，常にモチベーションを高く持ち，個性の発揮と演奏力の向上に努め，一つ一つの公演を大切にします。また，組織の一員として，コンプライアンスを遵守し，京響の活動を第一に取り組みとともに，一人の音楽家としての活動とのバランスを図り，京響楽団員としてのあり方を追求し続けます。

### ⑧ 活発なコミュニケーションによる創造性と調和の追求

音楽はそのものがコミュニケーションです。楽団員，指揮者，事務局職員が，互いに意見を尊重し合い，敬意をもってコミュニケーションを活発にすることにより，個性・創造性の調和を大切に作る組織風土をつくります。

### 戦略5

## 楽団経営の基盤を整え，マネジメントを強化します。

### ⑨ 持続的な収支構造の確立

京都市の財政支援に加え，演奏収入や助成金，寄付金の確保をはじめ多様な資金調達手段を講じます。全体の事業収支のバランスを図りながら，社会の変化にしなやかに対応できるよう，持続的な収支構造を確立します。

### ⑩ 京響の発展を支える体制の構築

京響の更なる発展に向け，財団と京都市が連携し，楽団員の創意や個性を大切にしながら，「参加・情報公開・説明責任」を重視し，社会の要請に適応した組織運営を行うことができる体制を構築します。